

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800063		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホーム もやいの家ひきみ		
所在地	島根県益田市匹見町匹見イ50-1		
自己評価作成日	平成30年3月9日	評価結果市町村受理日	平成30年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成30年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型として匹見地域の方に信頼され、足を運んで頂けるよう地域貢献事業や保育所等との行事企画に取り組んでいる。また今年度は他職種連携に力をいれて様々な視点からみていき1人1人に合わせたケアが実践できるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年に続いての調査。市内からかなり奥部に入るために、通勤の不便さからか職員の雇用には苦慮している様子だが、今年度から作業療法士を採用したことで、体操プログラムを作成して体操週間として実施することや、行政への報告事後を減らすために、個人リスクマネジメントによりインシデントレベルで分析し対策を立て、アクシデントに繋がらないようにする取り組みなど、専門性を多く生かしたものとして評価が高い。インシデントを細かく拾いあげることは記録の充実にも繋がり、職員個々のレベルアップにも効果が大きいように思われる。今年度も短期間に2人の看取りを行ったことで利用者の入れ替わりもあったようだが、介護度は高くても地元の人をという、郷土愛のような熱い思いも感じられた。同じ建物内に有料老人ホームや小規模のデイサービスがあることで、リハビリや行事などでの交流も多く、馴染みの関係を続けながら地域性を多めに生かした取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の理念に向かって職員一人一人が目標を持って日々のケアにあたっている。	グループ全体の理念から法人へ、そして事業所の目標に繋がっており、マネジメントの変革、事業の成長、介護の質を高めていく取り組みの項目別にわかりやすいものとし、個々に目標を作成する形となっている。6か月ごとに5段階で評価し意識した取り組みとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として保育所との行事開催、中学校の校内ロードレース応援に参加をしている。また毎月の地域ケア会議に参加し地域課題へ地域資源としてかかわっている。	保育所と合同で七夕会をしたり、9月には感謝祭を開催し神楽や和太鼓、琴演奏など、多くのボランティアの協力を得ている。すぐ近くの地元の中学校とはロードレースの応援やコミュニティスクールの開校などでの関わりも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の地域ケア会議に参加し地域課題の抽出を行い地域資源として取り組んでいける事を関係機関と一緒に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告、意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。今年度より町内に住んでいる家族様の参加が増えている。	地域からは自治会長、包括支援センターの職員に加え今年度は家族の参加者が増えたこともあり、資料作成しパワーポイントを用いて会議のあり方から説明。利用者の状況や行事等の様子を伝え、意見交換に繋げており、わかりやすいと好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の地域ケア会議や運営推進会議を通して関係機関と連絡、連携をとりながら協力関係を築いている。	毎回運営推進会議への参加があり、地域ケア会議での関わりもある。事例を通して地域の課題を検討する機会であったり、研修にも参加するなどいい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修参加や勉強会開催を行いながら拘束を行わないケアの実践を行っている。	行政への事故報告の数を減らす取り組みをしており、その結果センサーの利用が必要なケースも出てきている。機械に頼るのではなく、不十分な部分を補うものとしての共通認識を持った上での利用としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待防止についての理解を深め実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行っている。現在は成年後見人制度の該当者はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について十分な説明を行い、お客様の疑問点がないかを確認したうえで、契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度アンケートを実施頂いたご意見への回答は事業所に掲示している。また家族会にてご家族様が意見や要望を言える場を設けている。	年1回12月に家族会を実施。バイキングと一緒に食事したり、懇談会形式で交流の機会を持っている。法人の便りに加え、毎月担当から生活の様子を写真入りで伝えることも始め、多くの機会を利用して意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期に1度の面談、毎月の部署会議にて意見提案を聞く機会を設けている。	個々に目標作成したものを半期ごとに振り返り、それに合わせて面接を実施している。月1回の部署会議で意見を聞いたり、業務に入ることでも言いやすい雰囲気を作ったり、電話等での相談も受けるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援を積極的に行っている。また職員の力量に合わせて内部、外部への研修や勉強会を通して向上心が持てるように支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や能力に合わせて研修参加をして頂いている。また自己評価、上司評価を行い力量確認を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域が主催している交流会に参加をし他のグループホーム職員との交流を図っている。また法人内のグループホームとの交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、ご利用者様の状況の把握や要望、不安等がないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話連絡等により不安な部分が少しでも解消できるように努め、信頼関係が構築できるように取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思いを受け止め、現在の状況を把握しながら関係機関とも連携をとり必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊厳しつつ、暮らしの中で役割を持って生活できる様に支援しながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	祭りや家族会にてご家族様との絆を大切にできる場を設けている。またいつ面会に来られてもゆっくり過ごしていただける様に配慮に努めている。毎月担当職員から写真入りのお手紙を郵送させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の馴染みの場所に出掛けたり、顔なじみの方が気軽に来所できるように支援している。	自宅願望のある方には外出の際に立ち寄りたり、以前デイサービスを利用していた方は、通っていた曜日に友人に会いに行く機会を作ったりしている。2か月に1回地元の美容院の人に来てもらったり、関係継続に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の席に配慮したり、行事企画を通して関わりが持てるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了までの過程の中でも信頼関係を大切にし、契約終了後も電話や地域貢献事業を通してご相談が出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、意向や希望を汲み取れるように傾聴し本人本位のサービスが提供できるように支援に努めている。また意向が伝わる事が困難な方に対してはご家族様に話を聞きながら希望をくみ取れるように努めている。	デイサービスから入所になった方が多く、アセスメントは充分にできている。デイとの兼務職員もおり、家族との関係もできているため思いの把握にも繋がりがやすくなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中での言動や入居前の情報収集の中から、今までの生活歴や馴染みの暮らしを把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムを把握し、日による変化にも本人様のペースにて過ごしていただける様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様の意向を確認しながら計画作成担当者が主催にて他職種で話し合い介護計画書を作成している。	遠方で担当者会議への参加が難しい場合は電話で意見を聞くようにしている。家族の参加のもと開催したり、利用者本人の参加がある場合は、プランの中での本人の役割を確認する形で実行に移している。	今年度の取り組みを基に、より充実した介護計画作成に繋がるよう検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子やサービス内容の実施状況を個別に記録に残し、気になることについてはその都度カンファレンスを開催し介護計画書の見直しを行っている。またインシデント報告書を活用し小さな情報も共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況の変化に対応しながらサービス提供を行っている。また他職種にて連携をしながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や保育所、中学校との交流にて地域の中で暮らしていることを実感して頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との信頼関係を構築しながら、日々の生活の中で気になることは報告相談を行いながら連携をとっている。また主治医と話したことはご家族様へも毎回伝えている。	入所前のかかりつけ医を継続する場合は家族対応で受診する方もあるが、多くの場合は往診や緊急時の対応可能な協力医を紹介することで、移行の了解を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の状態の変化は、看護師や主治医に報告相談を行い、場合により専門医への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	年に1回の医師会看護師の訪問していただき、意見交換を行いながら関係を構築している。また、入退院が安心して行えるよう各医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に施設でできる対応を説明し、重度化した場合や終末期のあり方について確認を行っている。また状態変化がみられた際はその都度主治医も含めて話し合いを行い確認している。	以前から看取りを行っており、今年度は1週間で2人の看取りを行った。入所時も重度化に向かう段階でも、主治医を交えて今後の対応について話をする機会を持つようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1度、消防署の方に応急手当講習を行って緊急時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行いながら、災害時には実践できるようにしている。年1度マニュアルを使用しての勉強会も開催している。	デイサービスと合同での訓練を1回、グループホーム独自で夜勤想定訓練も1回実施している。近隣の支援は不充分だが、山や川からも離れた場所で災害には合いにくいし、地元の職員も多く、すぐ近くに消防署もあり安心感がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇について半年に1度評価を実施し尊厳を尊重した言葉かけや対応ができるよう努めている。年度初めに接遇勉強会も開催して基本を学んでいる。	職員個々に自己評価表で接遇面のチェックを半年に1回記入するようしており、それに対して管理者がコメントしている。会議の中で全体のこととして提案することで、気づいてもらうようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望をくみ取りながら、自己決定が出来るような声かけ等に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースや体調に気を付けながら、希望に沿って支援できるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望を確認しながら、入浴時や外出時は服を選んで頂いている。選ぶことが困難な方は職員が身だしなみに気をつけながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片づけなど職員と一緒にしながら、支援している。またメニューを考える際、食べたい物を聞いてみたり季節を感じて頂けるようなメニュー作りに努めている。	重度の方が多い為調理に関わることは少なくなってきたが、洗った食器を拭いたり片付けなどを一緒に行っている。担当が献立をたて、法人の管理栄養士の指導を受けながら、調理にあたっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握を行い、現状にあった食事形態にて提供を致している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛け及び介助にて、口腔ケアを実施している。夕食後は、義歯を専用の洗浄剤につけて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握できるように記録に残したり、排泄前の表情、言動変化に気を付けて誘導を実施している。	行動を見ながら必要な介助をするようにしている。紙パンツに数種類のパットを使い分け不快にならないようにしたり、コスト面も考慮するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分がしっかり取れるように支援している。必要に応じて主治医と相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせて入浴が出来るように支援している。入浴が楽しめるように入浴剤を使用したり工夫している。	3日に1回のペースで午後1日3人が入浴できるようにしており、汚れがある場合はシャワー浴対応を行うようにしている。男性職員が多いが同性介助を基本とし、その都度確認しながら1対1でゆっくり入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを作りながら日中は活動して頂き、夜間はしっかり寝て頂けるように支援している。眠れない方についてはリラックスして頂けるように温かい飲み物を提供したりと支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬内容についてはファイルにて整理し職員が把握できるようになっている。また変化がみられた際は主治医に確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状況や生活歴を把握しその人に合わせた役割や楽しみを取り入れていけるように支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に沿いながら買い物等へ外出できるように支援している。また季節に合わせて外出企画にて外出する機会を作っている。	食材の買い出しに20分くらい離れたスーパーに職員と一緒に出かけるのが主な外出の機会となっている。天候のいい時期には季節の花を見に出かけたり、外に出る機会を増やすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布をご自分で持たれておられる方については買い物支援も行っている。その際はご家族様へも説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話があった際には、少しでもお話をしていただける時間が持てるように支援している。年賀状等にお手紙が来られた場合は居室の目の届く所へ貼ってみたり工夫をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはご利用者様の作品や季節の花を飾っている。また湿度温度管理を行いながら加湿器や換気を行う等配慮している。昼夜にて食堂の明るさ調整をかけている。	中学校の寄宿舍だった建物を利用しているため、居室が横並びで前は長い廊下になっている。居室は2Fにあり、廊下の窓からは外の景色が良く見える。食堂を兼ねたホールからも町の風景が見渡せ、山や草木から季節が感じられる。寒い地域でもあり、エアコンにファンヒーターを併用しているため除湿器で乾燥を防いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては、お客様同士が話しながらテレビをみたり、安心して過ごせるに、席の配置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使っておられた物などを居室に配置していただいたり、写真の掲示やご家族様にゆかりの有る物を置かれたりして、ご本人様が過ごしやすいような工夫をしている。	以前使っていたタンスやテーブル、テレビなど思い入れのある物を持ち込み、部屋でくつろげるようにしたり、以前から床に畳の生活をしていた方の場合には畳に布団で落ち着けるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内についてはご本人様の能力等に合わせて家具の位置等に配慮して。ご家族様とも連携をとりながら協力していただいている。		